

私の工夫

資質・能力の向上に向けた組織的な英語教育の取組

県立岡山芳泉高等学校

教諭 田野 雅人



1 はじめに

私は本校に平成29年度に着任して以来、学校が進めている資質・能力の育成に沿った取組を、英語科の視点から研究・実践してきました。今回はそのいくつかを紹介いたします。

2 組織的な取組に向けて

国事業「外部専門機関と連携した英語担当教員の指導力向上事業」では、指導と評価の改善に係る授業公開や研修、及び教員の外部検定試験等を担当し、県内の先生方の授業やCAN-DOリスト等を拝見する中で、学習指導要領において示されている資質・能力の育成が、各校において具体的に

3 現任教での取組

①技能統合型授業

現任教では、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に組織として取り組んでおり、早くから教科スタンダードに基づいたアクティブ・ラーニング型授業に取り組んできました。

英語科では、各年次が生徒に身に付けさせたい資質・能力、それを実現するための授業の進め方に

どのような形で実践されているのかを知ることができました。また、数値等による明確な目標を立て、そのための手立てを系統的に行うことが、組織的な生徒の英語力向上の取組に必要であると実感しました。



資料1 発表の様子

ついで共通理解を図り、自分が伝えたい情報や考えなどを受け手に対して適切に伝える能力、例えば生徒が読み取った英文の内容を口頭で即興的に発表したり（資料1）、与えられたテーマに関するまとまりのある英文を書いたりすること等ができることを目標に定めました。そして、単元や題材のまとまりの中で指導内容を関連づけつつ「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を行うこととし、訳読や問題演習等をゴールにするのではなく、身に付けた言語項目を使ってアウトプットさせ

ることに全教員が取り組むことにしました。

私の行っている活動では、最初は英文を再現することに重点を置き、キーワードをスライドで示しながらできるだけ細かいところまで英語で発話できるようにします（資料2）。

Reproduction

- The writer / literature and film / Canada
- Students are interested in / rich in 1980/ anime
- gathering of M translators
- Haruki Murakami / popular / world
- "A Wild Sheep Chase" / disappointed
- ran out to buy "Hard-Boiled Wonderland"
- unnamed heros
- cool / unemotional / alone
- but longed for / relationship / others

資料2 キーワードの例（1年次）

年次が上がるに従って、自分が大切だと思う内容を中心に、キーワードを自分で選びながら、最後に自分の考えを含める等、自由度を高めた取組に段階的に移行します（資料3）。



資料3 発表後の書く活動（3年次）

アウトプットをゴールにするこ
とで、生徒はインプットや流暢性
の向上に一層積極的に取り組むよ
うになり、また、相手を変えたり
しながら繰り返し練習することで、
アドバイスや反省を基に自ら課題
を発見し工夫しながら発話するこ
とに繋がっています。

その際得た成果や課題について
は、令和元年には岡山県総合教育
センター主催の高等学校英語研修
講座、令和4年には初任者研修講
座で先生方と共有しました。

現在でもこの実践は改良を加え
ながら、英語コミュニケーション
の授業で継続的に実施しています。

② 探究的な学び

探究的な学びについては、コミ
ュニケーション英語Ⅰの教科書で
村上春樹さんの経歴や作品論につ
いて学んだことをきつかけとし、
国語科と共同で短編小説「鏡」の
原文と翻訳を用いて論じる授業を
行いました（資料4）。原文の理
解は国語科が行い、英語の授業で
は、村上春樹さんのレッススが終
了した後、国際バカロレアの「言
語A」の手法を用いて、原文と翻
訳2種類を比較しながらグルー
プでプレゼンテーションを作成しま
した。

生徒はオープンな問いを立て、
本文の具体的箇所而言及しながら
論じ、聞き手はルーブリックに従
って評価を行います。生徒は伝え
たい内容と表現の選択や、日英の
表現方法の違い、原文と翻訳が伝
える内容の差等に注目して読みを
深めました。

4 成果と今後の展望

これらの実践を含めた授業の成
果は、各年次で年1回全員受験す
る外部検定試験（GTEC検定版）
において、CEFR A2・B1

レベル以上を達成した生徒の数及
び技能ごとの成績の形で把握して
います。学校として目指す達成目
標に対して一年次、二年次で中間
評価ができるので、成果が不十分
な技能・領域を発見したり、計画
を見直したりするなどの修正が容
易になりました。

技能統合型の授業形態を導入し
て以来、総合でCEFR B1を
達成した生徒の数が増加し、習得
した言語項目をアウトプットする
機会が以前と比較して豊富に得ら
れることから、英語を書く力が特
に向上しました。

資料4

(資料2)

リーディングワークショップ3 村上春樹「鏡」の研究

1 目的
文字作品の翻訳と原文を比較することで、翻訳上の工夫について考察し、英語をより深く理解する。

2 題材
下のいずれかを選択する。
・村上春樹「鏡」原文（以下原文）と翻訳A（Philip Gabriel 訳）を比較する。
・原文と翻訳A及び翻訳B（Christopher Alison 訳）を比較する。

3 プレゼンテーションの方法
・使用言語は日本語または英語
・5人1班、1班5分
・発表メモ（A4 1人1枚）とポスター（A3 班で3枚、《具体例1～3》用）
・オープンな問い（はい・いいえで答えられない問い）を1つ設定し、それについて論じる。
・1人目 《序論》
問いを明示し、なぜこの問いに興味を持ったのか、具体的な研究の手法について説明する。
2～4人目 《具体例1～3》 ※4人目は具体例を2までとする。
具体的な本文の箇所を引用して、どのような特徴があり、どういふことが言えるのかを説明する。
3人は以下の引用を参考に、異なる視点から論じるのが望ましい。

<使用する表現の例>
○○という原文の要素を表現するために、翻訳○は○○という方法を用いている。
○○○という単語はほかの箇所では○○で/○○とも用いられている。
○○○という単語/音は○○を想起させる。
○○○の面に着目すると、翻訳○は○○となっており、翻訳○は○○となっている。
このことにより○○○という効果が生じている。

5人目 《結論》
再び、どのような問いに対して何を分析し、どのような答えを得たのかをまとめる。予想外な結果や、
新しい発見があった場合はそれらを明記し、なぜこの答えに至ったのかをまとめる。

4 日程
1時間目 通読、問いの決定
2時間目 問いの決定～結論の作成
3時間目 結論の作成～発表メモとポスター作成
4時間目 プレゼンテーション

5 評価標準

A 問いの設定	具体的で的を絞った問いが理由とともに明確に示されているか。
B 方法	問いを論じるのに適切な方法が取られているか。
C 例の分析	例の分析が異なる視点から論理的に行われているか。
D 結論	A～Cの議論を踏まえて一貫した結論を導いているか。
E プレゼン	質疑応答を含めて4分～5分の発表時間を守ったか。

本校では国語や地歴公民等、学
んだことを相手に分かりやすく伝
える機会を授業中に持つ教科が多
く、学校教育全体を通して育成す
べき学力と、各教科等で育成すべ
き資質・能力との相関・関連を図
りつつ、教育活動全体を主体的に
改善する取組が浸透しています。
これからの時代に求められる力を
確実に育成し、子どもたちを社会
に送り出すという視点から、英語
科としても、言語活動の質の向上
に向けて取組を進めていきたいと
考えています。